様式３－中

令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第五中学校　第 2 学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題（年度末）
国語	授業や課題に取り組む集中力は増してきている。自分の考えを表現するとき、書く形式ではかなり思考を深めて表出できるが、口頭発表には抵抗感を抱く生徒が多い。学力調査では、市・全国に比べ達成率が高いが、平均正答率は全国とほぼ同じとなっている。習熟度の低い生徒への支援が課題である。また、「話す・聞くこと」「書くこと」の領域の正答率が全国を下回った。記述問題をあきらめてしまう傾向があるので、基礎力を定着させ粘り強く取り組む姿勢を身につけさせたい。	引き続き漢字・語句・音読などの反復練習に重点を置き、基礎学力の定着を図る。場面に応じた読解のポイントを提示するとともに、必ず文章中の表現を手がかりとして読み解くことを習慣づける。また、自分の考えを支える根拠や理由を自分の言葉で説明できるよう授業で繰り返し練習していく。授業や話し合いの中でメモを取る習慣を定着させ、要点をおさえて聞くことを意識させていく。	
社会	昨年に引き続き、授業を意欲的に受ける生徒が多く見られる。授業時に出すワークシート等の課題に対して、積極的に提出する生徒が増えた。一方で、原因や目的、理由などを文章でまとめ、自分の意見を表現することが苦手な生徒が多く、知識・理解の定着の差が大きい。また、主体的に発言する生徒も限られている。	主体的に授業に取り組ませるため、導入時に到達目標をより明確にして意識させる。授業ごとにワークシート等の取り組みを行い、繰り返しながら知識の定着を図る。また、ワークシートの問題には、思考力や表現力を養う問いを多く設けて、個々に添削を行うことで理解を深めるようにする。	
数学	授業は落ち着いて受けられるようになってきた。基礎クラスは取りかかりが遅い。調査から、全体的に基礎内容は習得できているが、活用内容があまりできていない。知識・技能よりも、思考・判断・表現が落ち込む。知識はあるが表面的な理解にとどまっている状態であると考えられる。知識を適切な状況で引き出したり組み合わせたりする力の向上が課題である。	授業中は例題を解くだけでなく、いろいろな解法を試してみたり、似た問題を比べてみることが必要である。基礎クラスはまず具体化して考え、それを一般化するようにしていく。文章題は図やグラフに起こして視覚化した情報にとらえ直せるようにし、分野横断的に知識の関連性をさまざまな軸で考えるようにしていく。	
理科	実験・観察に対する興味や関心が高い生徒が多いため、主体的に学習に臨むことができている分、計算や表現力など論理的に考えて説明したり、まとめるといったことを苦手としている。また、既習事項の定着が不十分なこともあり、定期考査などの正答率が低いことも課題である。	・主体的に学習に取り組むことができる生徒が多いため、協働学習などを通してお互いに学び合える場を設け、苦手意識を克服できるようにしていく。 ・計算問題については、問題演習の回数を増やし、様々なパターンを解いていくことで経験を積み、課題解決力を養っていく。 ・ICT機器を活用し、効率よく既習事項の復習を行っていく。	
音楽	・女子は意欲的に取り組む生徒が多い。ただし、積極的に発言する生徒が少なく、歌唱の声も小さい。男子は意欲的な生徒と理解ができない生徒との差が大きい。 ・鑑賞分野において感じたことを言葉で表現するということが苦手な生徒も多い。 ・楽典は基本の理解に個人差があり定着させていく必要がある。	・学習に対する意欲を大切に、体験、グループ活動、話し合いを上手に取り入れ、学び合いができるようにする。 ・学習の理解の定着のために、発問の工夫や、小テストで、確認を行う。 ・鑑賞においては、考えさせる場面の工夫や、発表の仕方も考えて、自分の思いをより具体的に伝えられるようにする。	
美術	学年が上がり、全体的に授業における作品制作への短期的な集中力や主体性への高まりが感じられるようになってきている。一方で長期的に見通しをもって時間を意識して制作することには課題があり、予定通りに制作が進まないことがある。作品制作を意欲的に行うと同様に、定期考査への取り組みにも期待したい。	各単元の短期・中期・長期目標を明確にし、毎授業の時間を意識できるようにしていく。制作への効率的な方法を自ら考えることができるよう、相互の作品鑑賞を制作途中に設けていく。また、授業において思考・判断・表現力を高めることができるようにICTを効果的に活用していく。	
保健体育	体育分野に関しては、各自が個人の目標をもち活動している。そのため、運動が苦手な生徒でも自分の立てた目標達成に向けて積極的に活動している生徒が多い。活動の中で課題発見と課題解決に向けて考える力や、自分の考えを他者に伝える力を身に付けさせることが課題である。 保健分野に関しては、習ったことを自身の生活の中で活用していけるようにすることに課題がある。	授業の中で、生徒同士が話し合ったり教え合ったりする時間を設け、主体的な活動を促すとともに、考える力と考えを他者に伝える力を育む。また、引き続き生徒たちが個人の目標をもって授業に臨むように授業を進めていく。 保健分野では、より具体的な例を出しながら教えていくことで実生活と結びつきやすくする。	
技術・家庭	【技術】全体的に前向きに取り組んでいる。課題解決に向け個人差があり、グループ内で解決に向けた話し合いができる時間確保に努める。 【家庭】授業に取り組む姿勢は意欲的である。生活経験に差があり、裁縫実習においても多少は影響しているように感じる。また、技術定着の為に授業内での振り返りをさせる必要がある。	【技術】課題に取り組む工夫や他者の考え方を学び、課題解決に向けたきっかけによるグループ討議中心で進める。　【家庭】実習の進度の差は、昼休みや放課後等で教室開放を行う。 世の中や日常生活での具体的な例を多くあげ、1つ1つの縫い方の繋がりを理解させ、実生活にも活用できる力を身につけさせる。	
外国語（英語）	・スピーキング活動を毎時間習慣的に取り入れ、既習の文法事項の定着が図れている。 ・教科書で扱う英文の量が増え、読むことの意欲が低く、初めから諦めてしまう生徒もいる。 ・4技能の中で特に書くことの意識が低く、定期考査では書くことで大幅な差が出ている。	・授業内で単語の意味調べを取り入れた辞書引き指導を継続し、語彙力を増やしていく。 ・分からない単語があっても、英文を大まかにとらえたり、必要な情報を見つけられるように教科書の読み方を指導していく。 ・長期休業を活用して既習の単語を覚えるよう、休業明けに単語テストを実施していく。	
道徳	・ホワイトボードを活用し、意見交換を積極的に取り入れている。 ・道徳的価値観の変容をワークシートで読み取るため、自分の意見の他に友達の意見を記入する欄を設けている。 ・ICT機器を活用した資料提示を工夫して、考えがまとまらない生徒への手立てに役立てたい。	・一人一人が主体的に考え、深く学ぶための時間を確保する。ワークシートの記述時間を多めに設定することや、フィードバックの際にさらに深い学びを促すための声かけを行う。 ・タブレットなどのICT機器を活用していく。資料映像を提示し、自由に意見を発信できるような活動を取り入れていく。	
総合的な学習の時間	1学期はSDGsの基礎知識を学ぶとともに、「都内巡り」を行った。身近な地域の伝統や文化を調べたが、SDGsの視点をもつことで視野が広がり多様な課題を見つけることができた。事前事後学習においてICT機器を活用し発表にも工夫を凝らす姿が見られた。ただ、課題解決の過程でインターネットの検索等で済ませてしまう傾向が強いため、自分たちの生活に近づけたり話し合いで他者の意見を参考にしたりして思考を深める習慣をつけさせたい。	2学期以降は「上級学校調べ」「障がい者・高齢者理解」「異文化交流」などに取り組む。幅広い視野や考え方を身につけ将来について考えるとともに、自分の特性を社会の中で発揮しようとする姿勢を養う。また、調べ学習において課題設定の多肢化、聞き手を意識した発表の工夫などの力を伸ばす指導を心がけていく。	